

福祉教育への挑戦(6)

「高等専修学校に入って良かったことは？」

高井裕二

「勤務先の魅力ってなんだろう」

私は多くの人に福祉に関心を持ってもらうことをミッションとしていますが、合わせて高等専修学校が中学校卒業後の進路としてもっと広がってほしいとも考えています。そこで、今回は非常勤先のA高等専修学校(以下、A校)の生徒を対象に行った簡単な自由記述アンケートをもとに高等専修学校の魅力についてご紹介します。

「アンケート」について

非常勤先のA高等専修学校(以下、A校)の授業にて、「A校に入って良かったことは？」というアンケートを取ってみました(結果の使用や公開について所属長及び生徒たちの同意を取っています)。2018～2021年度に入学した福祉コースの生徒の2年生時、92名を対象に実施し、72名の回答がありました。福祉コースの生徒を対象とすることで福祉への言及も見られるかと期待しました。

アンケート結果を全てデータ化し、テキストマイニングのソフトである樋口(2020)のKHコーダーにて分析を行ってみました。論文ではありませんので、詳細なデータクレンジングは行っていません。

頻出語の抽出、共起ネットワークを作成し、キーワード前後の文脈を確認するKWIC((Key Word in Context)を用いながら、A校に入って良かったことを整理していきました。

頻出語から見た「良かったこと」

頻出語を見てみると「先生」が最も出現回数が多く、「優しい先生が多い」「福祉の先生がみんな優しい」といった回答が見られました。福祉職ではなく、教員として来ていますので、しっかりとした指導を行う必要がありますが、それでも福祉の先生が優しいと感じてもらえることは福祉専門職としての態度が滲み出ているのかなと嬉しく思います。

「友達」については「友達ができた」「中学校時代よりも友達ができた」との回答が多くみられ、中学校では不登校傾向だった生徒もA校に来て友達を作ることができているのかもしれない。その他、「福祉」では「実習で利用者から感謝の言葉をもった時に福祉を学んで良かった」、「福祉が楽しいと思った」のように学校生活を通して福祉コースを選んで良かったという肯定的な意見が多く見られました。また、A校の福祉コースでは介護職員初任者研修の資格が取れることから、介護について学ぶとともに資格を取得できることに魅力を感じていることが伺えます。

表1 頻出語(出現回数3回以上)

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
先生	19	介護	4
友達	18	楽しい	4
良い	14	行く	4
優しい	13	取れる	4
思う	12	専門	4
福祉	10	多い	4
学べる	7	綺麗	4
人	7	クラス	3
たくさん	5	トイレ	3
学校	5	今	3
教える	5	資格	3
好き	5	実習	3
明るい	5	分かる	3
		勉強	3

教員の魅力、専門性の魅力(共起ネットワークから)

次に単語同士の関連性を見る、共起ネットワークを紹介します。図1は先ほどの頻出語と共通する部分が多いですが、色で分類されているものを見ると、友達が多くできたという「学内の友人関係」、学校行事、相談に乗ってくれる教員の存在といった「学校生活」、トイレや教室が綺麗といった「学校設備」、経験豊富な教員や専門職から専門的な知識を学校や施設で学ぶことができるという「専門志向」、クラスの生徒同士の仲がいいという「クラス環境」などを考えることができます(ラベルを考える際のネーミングセンスがないので、もっと良い表記があるかと思います)。

図2は入学年度を外部変数として抽出した共起ネットワークです。年度による差も若干見られるものの、「学内の友人関係」「専門志向」は共通した傾向と考えることができます。高等専修学校は小・中学校時代に人間関係で躓いている生徒も多く、A校に来て多くの友達ができ良かったというのは、大変興味深く、学校としてどのような工夫をしているのか、もっと調べてみたいと思います。また教員をはじめとした大人に対する不信感を持って入学してくる生徒も一定数おり、そのような生徒とも一定の関係性を作ることができるのかなと感じます(もちろん、アンケート実施者が教員ということも留意する必要があります)。教員の生徒に対する言動が生徒の言動にも影響するでしょうから、教員の立ち振る舞いから福祉の魅力を一層伝えられたらと考えています。また資格取得を含め、専門性を持った教員から福祉を学ぶことに意義を感じている生徒も一定数いることが実感でき、専門性を感じてもらえるように身を引き締めなければと思います。

